

本日のまとめ①(先取り)

Ethnomethodology

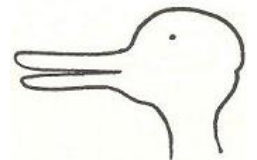
Ethno(人々の) + methodology(方法論)

= 人々の方法論を、人々から学ぶ学問

【重要な点】

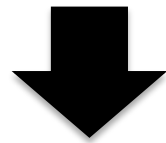
通常、方法論と言った時、それは観察者が解釈
枠組として用意するもの

→EMでは、それ自体が探求対象



本日のまとめ②(先取り)

- ・日常的なやり取りはでたらめに行われているわけではなさそう＝秩序がありそう
 - #会話を見よう
 - #会話は身体的振舞いと関連しているようだ
 - #これらは、周辺環境とも接続しているようだ



どのように組織されているのか見てみよう！



社会学とは？

対象と目的

Socius + Logos = (集まり) + (学)

- 社会学 = 社会的なものを取り扱う
- 社会的なもの = まとまり、つながり ex. 規範、信頼、価値...
- つまり、社会と個人の間を問う

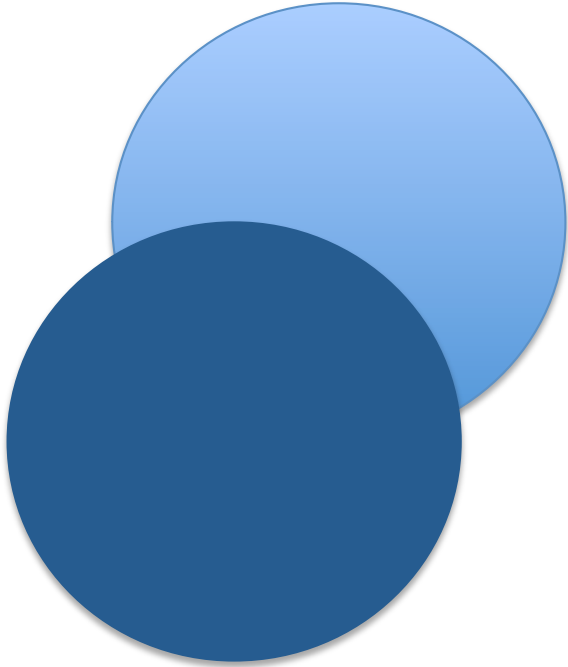
僕らはなんで一緒にいることができるんだろうね？

生きづらさとか

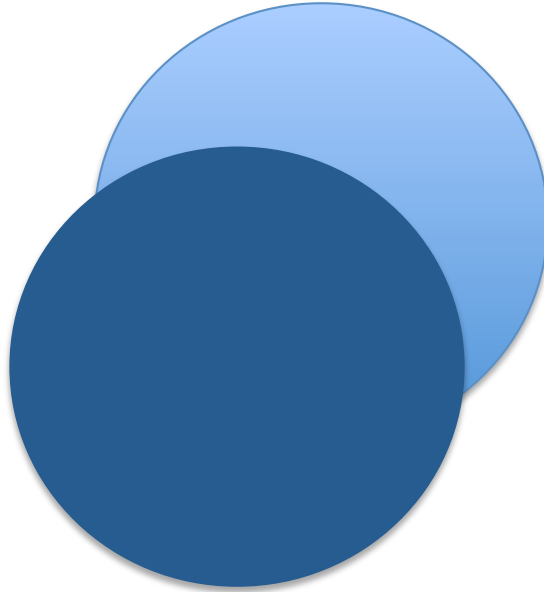
耐え難い経験とか

理想型のイメージ

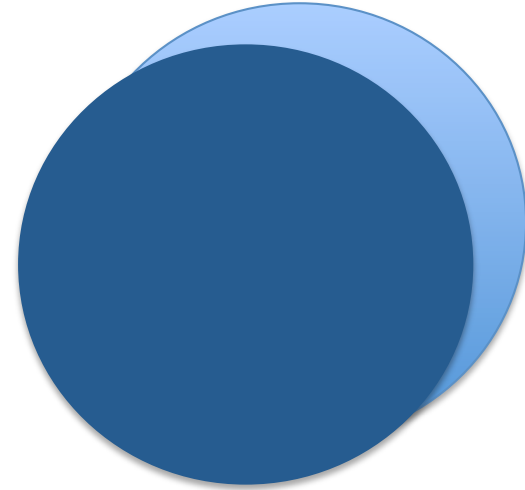
1



2



3



方法論的集合主義とEM デュルケム『自殺論』を例に

(「自殺」ということばの定義を日常用語からもってこようとすると、それがあまりに多義的・あいまいに使われていて定義不可能なので...)
~を、すべて自殺と(私、デュルケムが)定義しよう!

↓
統計データを分析した結果、
ユダヤ>プロテスタント、既婚者>未婚者、軍人
>一般市民など

↓
自殺は病理現象ではなく、社会現象である!

E. Durkheim『自殺論』より



方法論的集合主義とEM

EMからの批判

ある現象を「自殺」と同定することは、研究者の特権的な問いではない

↓

人々は、この問題をうまく切り抜けていたり、困ったりしている

↓

ならば、その「人々のやり方を見ていく」という研究がまずなされなければいけないのではないか？

↓

「人々の自殺概念使用の研究」という方向性

H. Sacks, (1963)「社会学的記述」より



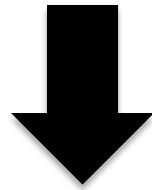
【反応A】

記述が無限に可能になってしまう！困る！！



【事実】

人々の実践は、研究者によってなんらかの方法で記述される前に、当の人々によって個別的に理解されているわけだが...



【反応B】

その事実を重く受け止めよう...

エスノメソドロジーとは再訪

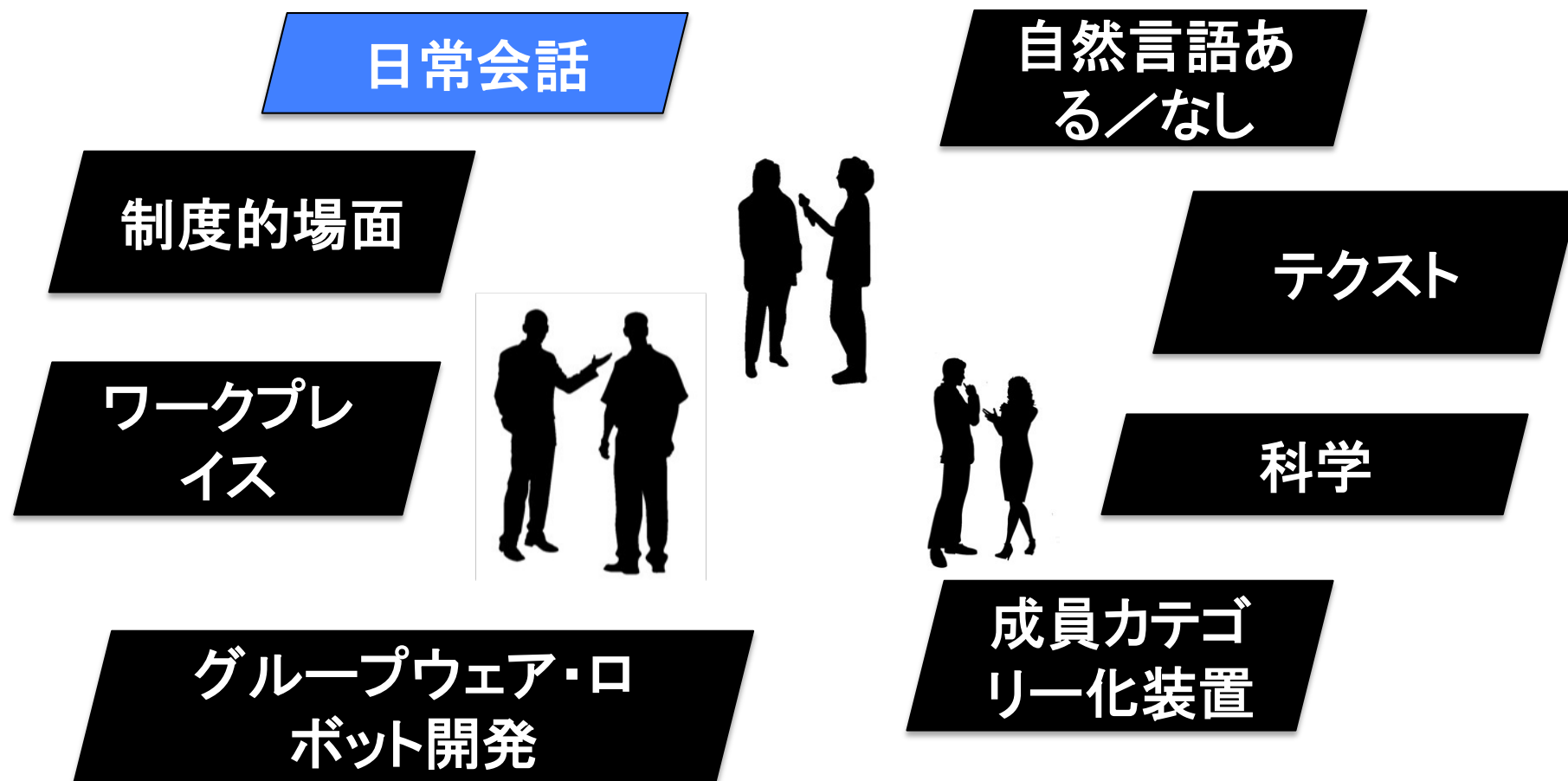
エスノメソドロジーに方法論はない

人々 (Ethno) の方法 (method)

→人々が実践していることに即した記述をしよう！

- ふつう、対象を把握する方法は研究者が用意するものだが、EMでは、それは人びとが日常生活のなかですでに用いているものだとする(実践的社会学的推論 practical sociological reasoning)
- そうした「人々の方法」の多くは見られているが気づかれていない
- EMには研究者が事前に用意するような類の「方法論」はない。ただ、人々の方法論を記述していく
- EM的無関心

エスノメソドロジーの対象 人々の実践のあるところ...



私たちの日常的なやり取りの多くは、会話を通してなされている→会話分析の発展へ

記述していく際の基本的態度

■「おはよう」の理解問題

A:おはよう

A:おはよう

B:おはよう

C:さっきあいつなんて言ってたの？

A:おはよう

会話の規則

事例

01 A : 映画見にいかない？

02 B : いいね、行こうか

会話の規則：隣接ペア

事例

01 A : 映画見にいかない？

誘い(FPP)

02 B : いいね、行こうか

受諾(SPP)

[誘いー応答] [挨拶ー挨拶] [問いー答え]

…といった、発話の第1部分 (FPP) のと第2部分 (SPP) の概念的連関・規範的關係を隣接ペアと呼ぶ

会話の規則

事例

01 A : いま暇？

02 B : 暇だよ

03 A : じゃあ映画見にいかない？

04 B : 何の映画？

05 A : 60年代のB級ホラーだよ！

06 B : いいね、行こうか

会話の規則

事例

01 A : いま暇？

02 B : 暇だよ

03 A : じゃあ映画見にいかない？

04 B : 何の映画？

05 A : 60年代のB級ホラーだよ！

06 B : いいね、行こうか

質問(Pre)

応答(Pre)

誘い(FPP)

質問(挿入)

答え(挿入)

受諾(SPP)

分析手続き

1. 会話をできるだけ正確に書き起こしをしよう
2. 「いまここ」でなにが行われたのかを、当該発話の前後から（つまり、参加者の理解に即して）同定していこう
3. 身体動作や目線、周辺環境も加味してデータを再訪しよう

人々が何をしているかだいたい把握できたら、分析の照準をどこに定めるかを定める

例

4-a. 会話の規則

4-b. 定式化手続き

...etc

本日のまとめ①

Ethnomethodology

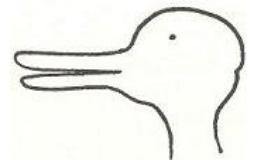
Ethno(人々の) + methodology(方法論)

= 人々の方法論を、人々から学ぶ学問

【重要な点】

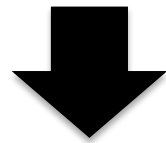
通常、方法論と言った時、それは観察者が解釈
枠組として用意するもの

→EMでは、それ自体が探求対象



本日のまとめ②

- ・日常的なやり取りはでたらめに行われているわけではなさそう＝秩序がありそう
 - #会話を见よう
 - #会話は身体的振舞いと関連しているようだ
 - #これらは、周辺環境とも接続しているようだ



どのように組織されているのか見てみよう！



本日のまとめ③

- ・取るに足らないとか、細かすぎるとか思うかもしれないが、**人々がやっていることがそれだけ精密で合理的**なのだから、記述がそうなるのは妙なことではない
- ・もちろん、会話の規則を見ることのみがEMではない。今日のは一例
- ・実際にやっていることとのレリヴァンスを維持することが大事
- ・レリヴァンスが維持されているからこそ再分析できる
- ・データセッションができる
- ・「見えるレベル」で、という条件さえ守れば、EMプロパーじゃなくても誰でもデータを見ることができる

